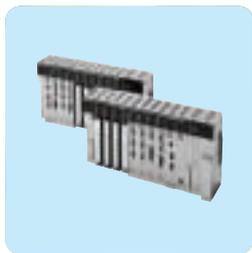


株主の皆様へ

第57期 報告書

平成20年4月1日 ▶ 平成21年3月31日

BUSINESS REPORT 2009



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

私は、この度、取締役会の選任により、代表取締役社長に就任いたしました。今後、創業の精神を受け継ぎ、「もの造りサポーターカンパニー」という原点に立ちつつ、新しい発想とアプローチでスズデンの発展に全力を尽くす所存でございますのでよろしくお願い申し上げます。

ここに第57期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)の報告書をお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

当期は、昨秋以降の急激な景況の悪化により、当社の主要販売先である電気機器・電子部品・産業機器業界では設備投資の抑制、生産調整を加速させており、当社業績の伸張も停滞を余儀なくされました。そうした中でも、当社物流戦略の要となる新物流センターが完成し稼働を開始するなど、さらに高度なサービスの提供やローコストオペレーションを実現する基盤の整備は大きく前進しております。

さらに新体制のもとで、“リバース・スズデン”を指針として掲げ、利益構造、コスト構造など従来からのビジネスのあり方全体の見直しを推し進めております。市場が収縮する中でも収益を伸ばすことのできる体制づくりを早急に進め、さらにお客様のお役に立てる新しいスズデンを創り上げてまいります。

株主の皆様には、今後とも、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成21年6月

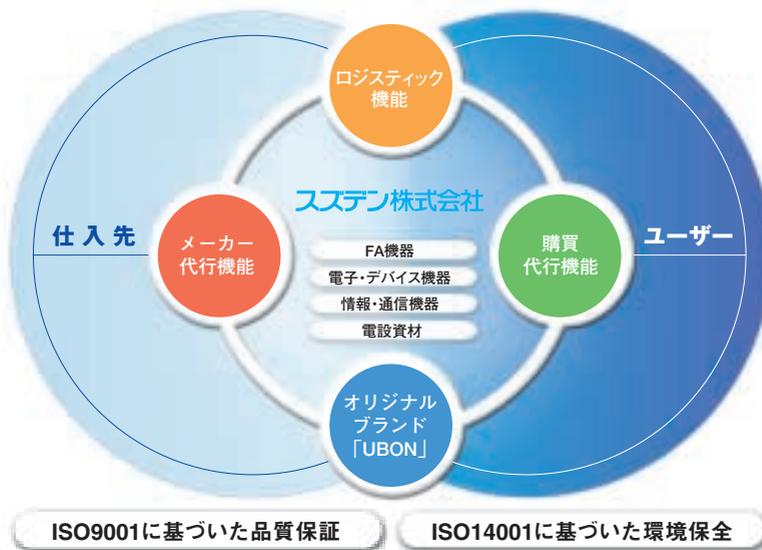


代表取締役社長 佐々木 秀明

スズデンのビジネスモデル「もの造りサポーターカンパニー」

当社は、FA機器、電子・デバイス機器、情報・通信機器、電設資材等の国内有力メーカー約1,000社の仕入先と、さまざまな業界の約5,000社を超えるユーザー企業を結び、もの造りに不可欠なトータルソリューションを提供する技術商社です。

当社システムエンジニアによる技術支援を柱に、高機能商品・システムのご提案やアプリケーションソフトのご提供をメーカーに代わって行う「メーカー代行機能」、独自の情報・物流システムで構成される「ロジスティック機能」、お客様の一括購買を代行する「購買代行機能」、お求めやすい価格・小ロット購入にお応えするオリジナルブランド「UBON」などの機能を最大限に発揮し、広くもの造りの現場に貢献しています。



当期のポイント

- 世界同時不況の影響を受け、生産・在庫調整が進むとともに設備投資の延期や中止が相次ぎ、減収。
- 粗利率の改善とともに販売費及び一般管理費の全面見直しを行い、利益確保に努めたものの、売上高の減少分をカバーできず、減益。
- 千葉県松戸市に建設中であった東京物流センターが竣工し、3月より稼働。

売上高

(単位:百万円)



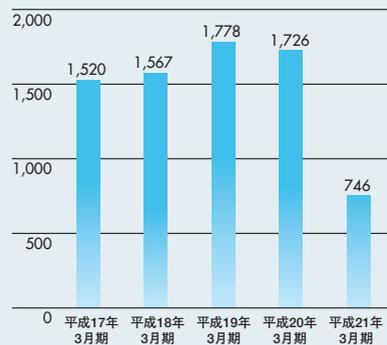
営業利益

(単位:百万円)



経常利益

(単位:百万円)



当期純利益

(単位:百万円)



1株当たり当期純利益

(単位:円)



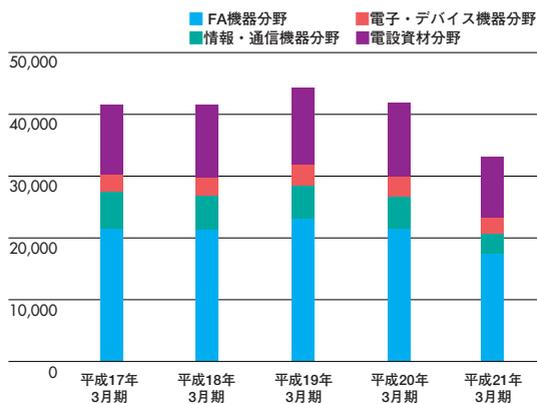
1株当たり純資産

(単位:円)

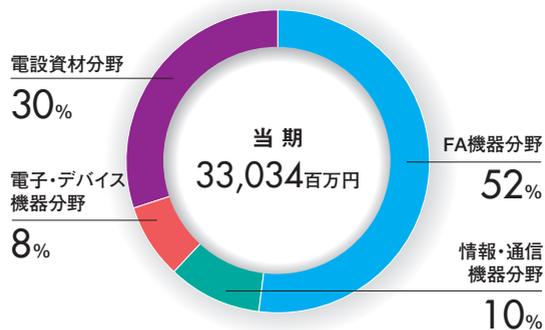


商品分野別の状況

商品分野別の売上高推移 (単位:百万円)



商品分野別売上高構成比



参考データ (前期)

FA機器分野	51%
情報・通信機器分野	12%
電子・デバイス機器分野	8%
電設資材分野	29%

FA機器分野

制御機器、センサー、PLC、表示機器等の販売が大幅に減少し、売上高は173億23百万円(前期比19.3%減)となりました。



売上高比率

52%

情報・通信機器分野

組込用ボードコンピュータ、システムラック、パソコン本体等が大幅に減少し、売上高は33億6百万円(前期比35.7%減)となりました。

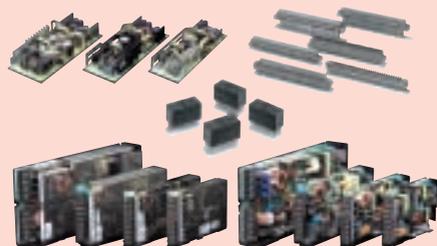


売上高比率

10%

電子・デバイス機器分野

コネクタ、基板搭載用電源等が大幅に減少し、売上高は24億81百万円(前期比21.0%減)となりました。



売上高比率

8%

電設資材分野

ケーブルアクセサリ、ボックス、電線・ケーブル等が大幅に減少し、売上高は99億23百万円(前期比17.5%減)となりました。



売上高比率

30%

■ 今後の見通し

平成22年3月期も景気の回復は遅れ、年度を通じて厳しい景況で推移するものと予想しております。

こうした環境のもと、通期では以下のように見込んでおります。

(平成21年5月11日公表)

	連結業績予想額	前期比
売上高	27,070百万円	△ 18.1%
営業利益	59百万円	△ 90.5%
経常利益	125百万円	△ 83.3%
当期純利益	26百万円	△ 93.5%

なお、以上のような業績予想を勘案し、誠に遺憾ではございますが、平成22年3月期の配当を見送りさせていただくことといたしました。

今後につきましては、速やかな業績の回復を実現し、早期の復配を目指していく所存であります。

電気機器・電子部品・産業機械業界

半導体・液晶製造装置関連機器メーカー、産業機器メーカー

生産活動、設備投資の回復は遅れるものと予測

年度を通じ厳しい状況下で推移するものと予測

FA機器、電子・デバイス機器分野

下期より生産・設備投資に多少回復の兆しが見え始めるものの、通期では低調に推移するものと予測

情報・通信機器分野

法人向けカスタムパソコン、機器組込用ボードコンピュータ等を中心に低調に推移するものと予測

電設資材分野

工場設備需要の低迷や建築着工の抑制が継続し、厳しい状況下で推移するものと予測

新社長 佐々木秀明が語る今後のビジョン



“リバース・スズデン” —

「もの造りサポートینگカンパニー」を深化させ、
より収益性の高い会社に生まれ変わる

— 未曾有の不況の時期に新社長に就任されましたが、
抱負をお聞かせください。

社長 まず、社長の交代については、経営層の若返りを図り、次の世代を育てるという流れの中で私が指名されました。たまたま、こうした時期になってしまいましたが、ビジネス全体を見直し、全社一丸で改革に取り組む好機でもあると考えています。

新年度から向こう3年間の指針として“リバース・スズデン”を掲げました。新しいスズデンに生まれ変わる。いま、市場が収

Profile

氏名	佐々木 秀明 (ささき ひであき)
生年月日	昭和34年2月27日生 50歳
出身	新潟県
最終学歴	昭和56年3月 東洋大学法学部卒業
略歴	
昭和58年1月	鈴木電興株式会社入社
平成5年3月	SUZUDEN SINGAPORE PTE LTD 取締役
平成13年4月	当社店舗営業部長
平成17年1月	当社総務部長
平成18年4月	当社執行役員 総務部長
平成20年4月	当社上席執行役員
平成20年6月	当社取締役
平成21年4月	当社代表取締役社長 兼 執行役員社長 (現任)

～「もの造りサポーターティングカンパニー」の深化～

縮小の中で、収益をどのように伸ばしていくかが当社の最重要のテーマです。そのためには、コスト構造や利益構造、商品・サービス、お客様など、これまでのビジネスのあり方全体を新しい視点で見直すこと、同時に、営業、物流、間接部門でも例外なくローコストオペレーションを徹底させていくことが不可欠になります。「もの造りサポーターティングカンパニー」としてのレベルアップを追求しつつ、時代に即してコンパクトで収益性の高い会社に生まれ変わっていき。それが「リバース・スズデン」の目指すところです。

この時期だからこそ、 お客様の役に立てる会社に

— 改革していく点をいくつか挙げていただくと…。

社長 「もの造りサポーターティングカンパニー」としてお客様の立場で考えること、お客様の抱える課題を把握し、解決策を提案することを徹底させていきます。たとえば、いま景気が後退する中で、調達や生産の工数を削減したいというお客様は少なくありません。そうしたお客様にこうすれば工数が削減できる、歩留まりを上げられるといったご提案、お客様が気づかなかったような改善のご提案をする。それによって、競合他社との差別化を図ります。

また、営業部門と技術部門が連携して、お客様の課題解決のための新しい商品やサービスを開発し提供する。たとえば、工

数削減にポイントを絞ったり、付加価値をつけた商品・サービスです。同じような課題を抱えるお客様は多いので、開発した商品・サービスを他のお客様にも適用していく。それによって売上や利益を伸ばしていきます。こういう時期だからこそ、スズデンがお客様のお役に立てるのではないかと考えています。

— その意味では、オリジナルブランド「UBON（ユーボン）」は
好例になりますね。

社長 どのお客様も余分なものを抱えたくない。小ロットで提供するユーボンはそうした現在の市場ニーズに応える商品群で、売上は順調に伸びています。現在はユーボン販売推進部が中心になって拡販に取り組んでおり、この売上を今後は2倍、3倍にしていきたい。

さらにユーボンにとどまらず、全体として提案できる商品・サービスの幅を広げていく。これまでは電気機器が中心でしたが、メカトロニクス分野の取り扱いも増やしていきます。また環境・エネルギー関連の商品・サービスにも力を入れていきます。工場の照明や空調、機器の管理などでも、こういう方法で省エネや安全対策ができますというご提案を「快適工場提案」という形で実施できるようにしていきます。

また、当社の販売する商品でも保守やリプレースのニーズは必ず発生します。しっかりと顧客を把握してそれを確実にフォローしていく。売って終わりではなく、リプレースの時期がきたらお客様にご提案していく。それも徹底していきます。

新しい物流拠点「東京物流センター」を起点に ローコストオペレーションを推進

— 新しい物流拠点

東京物流センターが稼働開始しました。

社長 これまで3か所に分散していた物流センターを東京物流センターに統合しました。これによって、物流のコストも時間も大幅に削減できます。また要員も最小限で済みますから、他部門に投入できます。東京物流センターは、現在の3倍の売上を想定して建てており、このセンターからすべてのお客様に直送できる体制が整いました。また、スペースを利用して修理の受付窓口をここに統合する、あるいはカタログ類をここで一元的に管理・発送するといったことも可能になります。そうした面でも効率化、コストの削減が図れます。

もちろん、サービス品質の向上の面でも東京物流センターの効果は大きなものがあります。直送体制が整ったのでリードタイムを短縮できます。また、バーコードシステムですべての商品を管理するので人的なミスを防止でき、サービス品質の一層の向上が図れます。

免震構造になっていることも東京物流センターの大きな特長です。直下型地震が発生した場合でもお客様へお届けする商品を安全に維持・保管できますので、安心してお取引いただけます。また、当社の基幹コンピュータシステムも東京物流センターで運用しますから、災害発生時にも業務が停止しません。非常時でも安定的に迅速な商品提供が可能ですので、お客様の事業の再開・継続をしっかりサポートすることができます。

BCM(事業継続マネジメント)への関心が高まり、それが取引先選定の条件のひとつになる中で、当社の東京物流センターはそうした意味でも評価されると考えています。

展示会・セミナーで営業と マーケティングを強力推進

— これから特に注力される取り組みについてお聞かせください。

社長 さまざまな施策を同時に並行して進めていきますが、営業面で一例を挙げると、「出前展示会」があります。お客様のところに向いて昼休みの時間帯などに展示会を開かせていただくことで大好評を得ています。この展示会を2倍3倍に増やしていきます。FA、電材、ITなどを含めてトータルにご提案する展示会で、営業面での効果も大きいのですが、お客様の現場の課題、お悩みごとを直接伺えるという効果もあります。これら現場の声を新製品・サービスの開発に反映させていきます。

同様にお客様の元に向いて情報提供や技術研修を目的としたセミナーも開催していますが、こちらも好評です。こういう時期ですから、わざわざ出張して展示会やセミナーに参加するというお客様は少なくなっており、出前展示会やセミナーを開催して欲しいという要請が、相次いで寄せられています。

— 提案される商品やサービスも増やしていくということですね。

社長 生産設備・部品だけでなくファシリティや備品などまで、もの造りの現場に必要なものを当社がワンストップで提案・提

供していきます。また、先にも触れましたが、お客様の求めるものを開発・提案するため、これまで限られた範囲での対応にとどまっていた技術部門を全社に対応していくように改めていきます。課題解決のためのアプリケーションを開発し、それを横展開していく。これも重点施策のひとつです。

「NOと云わずにどうしたら出来るか? を考えよう」 お客様対応でも社内改革でも前向きな姿勢を涵養していく

— 組織的な面での改革も強力に推し進めていかれると…。

社長 当社は商社ですから、やはり人材と組織が最重要のリソースです。一人ひとりの能力を高める、組織が密に連携してビジネスを進める。そこがポイントになります。いま掲げているスローガンは「NOと云わずにどうしたら出来るか? を考えよう」です。お客様の要望を聞いても、あるいは社内の会議においても、「できない」と言ったらそこで終わりになります。どうしたらできるのか、それを考えてみるのが肝心です。

組織力を高めるために情報の共有化は不可欠で、月に一度は部長クラスも含めた会議を開催していますが、そうした会議でもNOを言わない、提出された提案がダメだと思えば代案を出す。お客様の課題解決でも社内の課題解決でも、それは同じです。常に前向きに思考し対応する姿勢を徹底していきます。社員の育成においてもそれを基本にしていきます。

もうひとつは一人ひとりがそれぞれの役割・責任を果たすということ。これも徹底していきます。社長も役員も最前線の営業担当者も含めて、全員が責任を全うし能力を100%発揮していくこ



とが肝心です。それに関連しては、業界担当、商材担当といった従来までの縦割り組織から、組織横断的な会議、情報交換会を新たに設定し、それぞれに責任をもたせるようにしていきます。

— 最後に株主の皆様にもメッセージをお願いします。

社長 前年度は期初から厳しい環境を想定して対策を講じてきたのですが、昨年の秋以降の急激な景気悪化は想定を超えたものでした。景気の先行きは依然不透明と言うのが率直な見通しです。ただ、景気が低迷する中でも、市場が収縮する中でも、売上を伸ばし、利益を上げていくために、新体制のもとで次々と改革を進め実践してまいります。配当性向33%は維持し、利益を上げて株主の皆様にも還元していきたいと考えています。

ぜひ株主の皆様にはご理解いただき、なお一層のご支援をいただきますようお願い申し上げます。

スズデン東京物流センター稼働開始

かねてより建設を進めておりました「東京物流センター」が完成し、本年3月より稼働いたしました。

「東京物流センター」は、BCM(事業継続マネジメント)の観点から免震構造で設計、建築しており、在庫商品やお客様からご注文いただいた商品を安全に保管するとともに、お客様への



バーコード検品



免震装置

直送によるリードタイムの短縮、ジャストインタイムの商品納入、購買代行によるお客様のコスト削減の支援等、より迅速なサービスと高度で多様なサービスをご提供してまいります。

また、分散していた3か所の物流センターを「東京物流センター」に統合したことにより、適正な在庫管理と業務の効率化を進め、今後一層のローコストオペレーションを実現してまいります。

スズデン東京物流センター

所在地 〒271-0064 千葉県松戸市上本郷701番地7
TEL 047-703-4040 FAX 047-308-5557
建設面積 5,115.57㎡ 延床面積 10,182.9㎡
建物構造 鉄骨造 地上2階建 免震構造
主要設備 乗用エレベータ1基、荷物用エレベータ(3t)2基、
テーブルリフター1基

● 品質管理

ISO9001マネジメントシステムによる業務品質を基盤にバーコードによる検品システムで誤入荷・誤出荷を未然に防止し、物流品質を高めています。

● 環境対応

環境配慮型商社として、ISO14001マネジメントシステムを基盤に環境配慮型梱包材の使用や通い箱(リユース)の利用促進を通じて、環境保全への対応を行っております。

SUZUDEN
NOW

「快適工場」づくり

もの造りをサポートするのがスズデンの大切な使命です。

商社としてどこまでもの造りをサポートできるか。これは、スズデンの永遠のテーマです。

最先端の制御機器や電材商品をお届けすることで、「もの造りそのもの」を直接サポートするだけでなく、省エネ、省資源はもとより、清潔で安全な現場の追求といった“もの造りの側面”までそのサポート領域を広げてきたのもそこに理由があります。

もの造りサポートカンパニー



「快適工場」を3つの方向からサポートします。

塵や埃のない清潔な現場。危険領域の完全なガード。「快適工場」は、従業員にとっても企業にとっても理想の姿。当社は、さまざまなメーカー様とタイアップして、必要な快適性を発揮する機器システムをお届けしながら、もの造りを側面からサポートしています。そのキーワードは「品質」、「環境(省)」、「安全」。これこそ、もの造りの最も基本的な要件です。当社は真の「もの造りサポートカンパニー」として、業界ニーズの最適対応を心掛け、この3つの方向から「快適工場」づくりを提案していきます。

品質

クリーンな環境をつくる機器・装置や高度な検査関連機器が、品質のつくり込みをサポートします。

環境(省)

省エネ、省資源、省コストをテーマにした幅広い分野の機器類が工場の「省」をサポートします。

安全

空間まるごと安全区域に。さまざまな方法で働く人の安全な作業をサポートします。

■ 環境に配慮した事業活動を徹底し、環境保全の輪を広げます。

当社は、「もの造りサポートカンパニー」として、地球の環境保全に取り組むことが、当社の持続的な発展のために最も重要な事項のひとつであると認識しています。

本社及び各物流センターは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しており、今後も当社の事業活動においてペーパーレスや廃棄物の低減などの取り組みを継続していきます。また、多くの企業に環境保全を広める活動として、販売活動や商品・サービスを通じて環境問題に取り組んでいきます。

■ 「事業活動」の中から発生する「エネルギー」、「ペーパー」、「廃棄物」の量を低減し、リサイクル社会に貢献

- 事業活動の環境への影響を評価し、環境負荷低減を推進
- 商品・サービスの環境への配慮

■ 地球温暖化抑制に関わる活動推進

- アイドリングSTOPの徹底
- 物流活動における環境負荷低減（通い箱納品の推進等によるエコ物流の実現）
- 「チーム・マイナス6%」への参加

■ 既存事業の環境への配慮

- リユース・リサイクル活動の推進
- 廃家電・小型二次電池リサイクル活動の推進

環境負荷の低減と
環境マネジメントの徹底

「ISO14001」認証取得
・認証取得日
平成14年3月13日
・適用範囲
本社及び物流センター

業務に対する取り組み

販売商品・サービス事業に対する取り組み

■ 「環境配慮型商品」を販売することで環境負荷を低減します。

- 新規事業の環境への影響を評価
- 商品・サービスの環境への配慮

■ 「循環型機能商品」としてスズデン「安心サービス&サポート」をご提供します。

環境配慮型商品と
循環型機能商品の販売展開



- あたり安心サービス
- エネルギー（乾電池・バッテリー）安心サービス
- フィルター安心サービス
- グリーンサービス
- ラップコートサービス

- グリーン購買サポート
- 診断サポート
- 再資源化サポート
- 物流サポート
- クリーンエネルギーサポート

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表

(単位:千円)

	当期末 平成21年3月31日現在	前期末(ご参考) 平成20年3月31日現在
資産の部		
流動資産	14,199,634	18,573,497
固定資産	9,055,464	7,875,278
有形固定資産	7,728,343	6,491,150
無形固定資産	170,707	186,529
投資その他の資産	1,156,413	1,197,597
資産合計	23,255,098	26,448,775
負債の部		
流動負債	4,606,824	8,906,123
固定負債	3,847,009	2,609,977
負債合計	8,453,834	11,516,100
純資産の部		
株主資本	14,839,864	14,893,960
資本金	1,819,230	1,819,230
資本剰余金	1,532,607	1,532,607
利益剰余金	11,709,347	11,763,443
自己株式	△221,320	△221,320
評価・換算差額等	△38,600	38,714
その他有価証券評価差額金	△21,775	34,030
為替換算調整勘定	△16,825	4,683
純資産合計	14,801,264	14,932,675
負債純資産合計	23,255,098	26,448,775

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

■ 連結損益計算書

(単位:千円)

	当期 平成20年4月1日～ 平成21年3月31日	前期(ご参考) 平成19年4月1日～ 平成20年3月31日
売上高	33,034,747	41,772,165
売上原価	27,662,717	35,118,661
売上総利益	5,372,030	6,653,504
販売費及び一般管理費	4,751,833	5,110,805
営業利益	620,197	1,542,698
営業外収益	241,975	302,357
営業外費用	115,215	118,984
経常利益	746,957	1,726,072
特別利益	5,156	46,278
特別損失	33,060	20,568
税金等調整前当期純利益	719,053	1,751,782
法人税、住民税及び事業税	257,412	515,070
法人税等調整額	62,607	268,582
法人税等合計	320,020	783,652
当期純利益	399,032	968,128

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当期 平成20年4月1日～ 平成21年3月31日	前期(ご参考) 平成19年4月1日～ 平成20年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,503,982	931,764
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,104,569	△1,248,414
財務活動によるキャッシュ・フロー	△596,844	743,763
現金及び現金同等物に係る換算差額	△20,325	△6,127
現金及び現金同等物の増・減(△)額	△217,757	420,985
現金及び現金同等物の期首残高	4,698,475	4,277,489
現金及び現金同等物の期末残高	4,480,718	4,698,475

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

■ 連結株主資本等変動計算書 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
平成20年3月31日残高	1,819,230	1,532,607	11,763,443	△221,320	14,893,960	34,030	4,683	38,714	14,932,675
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△453,128		△453,128				△453,128
当期純利益			399,032		399,032				399,032
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						△55,805	△21,508	△77,314	△77,314
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△54,096	—	△54,096	△55,805	△21,508	△77,314	△131,411
平成21年3月31日残高	1,819,230	1,532,607	11,709,347	△221,320	14,839,864	△21,775	△16,825	△38,600	14,801,264

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

■ 財務チェックポイント

① 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産合計は、前連結会計年度末に比べ31億93百万円減少し、232億55百万円となりました。

流動資産は、主に現金及び預金の増加7億92百万円や受取手形及び売掛金の減少47億10百万円、商品及び製品の減少4億40百万円等により、43億73百万円減少いたしました。

固定資産は、主に千葉県松戸市に建設した東京物流センターの取得等により建物及び構築物が12億11百万円増加し、11億80百万円増加いたしました。

負債は、主に仕入債務の減少24億93百万円と未払法人税等の減少4億37百万円等により、30億62百万円減少いたしました。

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億31百万円減少し、148億1百万円となりました。

自己資本比率は、前連結会計年度末の56.5%から63.6%へ7.1%上昇いたしました。

② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末の現金及び現金同等物は、44億80百万円となり、前連結会計年度末に比べ、2億17百万円の減少となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、25億3百万円となりました。これは主に税金等調整前当期純利益7億19百万円、売上債権の減少47億3百万円、たな卸資産の減少4億36百万円に対し、仕入債務の減少24億89百万円、法人税等の支払7億5百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、21億4百万円の減少となりました。これは主に千葉県松戸市に建設した東京物流センターの建設資金支払を要因とした有形固定資産の取得による支出10億48百万円、手許資金の短期運用を目的とした定期預金設定による支出10億10百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、5億96百万円の減少となりました。これは主に配当金の支払4億53百万円によるものです。

■ 会社概要 (平成21年3月31日現在)

社名	スズデン株式会社
英文社名	SUZUDEN CORPORATION
創業	昭和23年1月
設立	昭和27年12月
資本金	1,819,230,000円
従業員数	346名
主な事業内容	FA機器、情報・通信機器、電子・デバイス機器、電設資材等の販売及び輸出入業務
連結子会社	スズデンビジネスサポート株式会社 SUZUDEN SINGAPORE PTE LTD SUZUDEN HONG KONG LIMITED (鈴電香港有限公司) 斯咨電貿易(上海)有限公司 (SUZUDEN TRADING (SHANGHAI) CO.,LTD)

■ 取締役・監査役 (平成21年6月26日現在)

代表取締役社長	鈴木敏雄
代表取締役社長	佐々木秀明※
取締役副社長	臼田憲司※
取締役	平野利晴※
取締役	鈴木木茂※
取締役	今泉嘉信※
取締役	松崎総一郎※
取締役	浅井伸晃※
常勤監査役	加山宏
監査役	都築隆也
監査役	杉山茂
監査役	桃井邦義

(注) 1. ※印は執行役員を兼務しています。

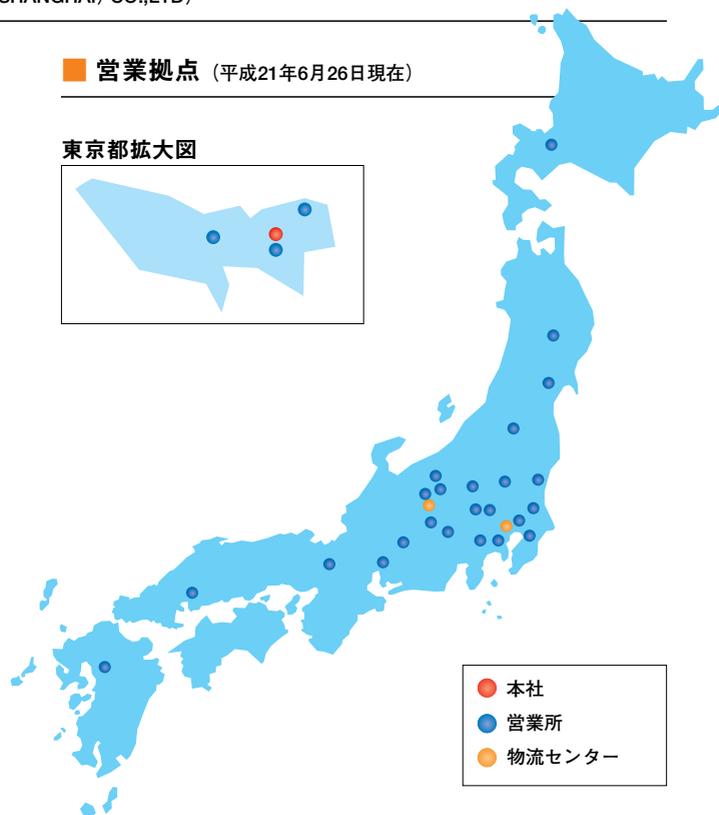
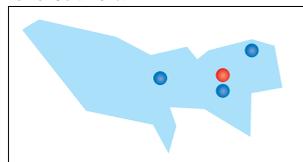
2. 監査役 都築隆也、杉山茂、桃井邦義の3氏は、社外監査役です。

■ 執行役員 (平成21年6月26日現在)

執行役員社長	佐々木秀明
上席執行役員副社長	臼田憲司
上席執行役員	平野利晴
上席執行役員	鈴木木茂
上席執行役員	今泉嘉信
上席執行役員	松崎総一郎
上席執行役員	浅井伸晃
執行役員	春日忠司
執行役員	岩沢祐二
執行役員	山崎博和

■ 営業拠点 (平成21年6月26日現在)

東京都拡大図



- 本社
- 営業所
- 物流センター

■ 株式の状況

発行可能株式総数	47,590,000株
発行済株式の総数	15,152,600株
株主数	6,336名

■ 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
鈴木 敏雄	1,988	13.1
ベル株式会社	1,462	9.6
オムロン株式会社	1,329	8.8
岡野 妙子	754	5.0
鈴木 達夫	737	4.9
鈴木 たか	706	4.7
スズデン社員持株会	269	1.8
株式会社サンセイテクノス	250	1.6
梶山 勝嗣	245	1.6
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4G)	227	1.5

(注) 当社は自己株式535千株(出資比率3.5%)を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

■ 所有株式数別分布

	株	比率
金融機関	729,400	4.8%
金融商品取引業者	30,944	0.2%
その他の国内法人	3,921,612	25.9%
外国法人等	18,415	0.1%
個人その他	9,916,689	65.5%
自己名義株式	535,540	3.5%



株主優待制度

① 対象者

当社決算期末の3月31日現在の株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有されている株主様を対象とさせていただきます。(年1回実施)

② 贈呈内容

保有年数	優待商品
当社株式保有年数が 2年に満たない場合	QUOカード(1枚1,000円)1枚
当社株式保有年数が 2年を超える場合	QUOカード(1枚1,000円)2枚

③ 贈呈の時期及び方法

毎年、当社決算期末の3月31日現在の株主名簿に記載されたご住所宛に、7月上旬までに発送いたします。

④ 保有基準の確認

毎年、当社決算期末の3月31日を基準として、過去2年間の中間期及び期末期において、継続して所有し、株主名簿に同一株主番号として記載された株主様といたします。

(例) 平成21年3月期末における2年を超える保有の確認は、平成19年3月31日の株主名簿から平成21年3月31日までの中間期・期末期の株主名簿に同一株主番号として記載された株主様といたします。(次回以降も毎年決算期末の3月31日を基準として、同様の方法で確認いたします。)

■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中に開催
剰余金の配当の基準日	1. 期末配当 3月31日 2. 中間配当 中間配当を実施するときは9月30日
単元株式数	100株
基準日	1. 定時株主総会については3月31日 2. その他必要がある場合は、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店	お取引の証券会社になります。	みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。 電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、やむをえない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL (http://www.suzuden.co.jp/)

○ 上場株式配当等の支払に関する通知書について
租税特別措置法の平成20年改正(平成20年4月30日法律第23号)により、平成21年6月にお支払いする配当金について株主様あてに「支払配当金額」や「源泉徴収税額」等を記載した「支払通知書」を通知することとなりました。配当金を配当金額収証にて受取られる株主様は来年の確定申告手続きに合わせて平成21年末～平成22年初に「支払通知書」を送付いたしますのでご覧ください。
(なお、口座振込または株式比例配分方式を指定されている株主様は配当金をお受取の際に送付されている「配当金計算書」が「支払通知書」となりますので、引続き確定申告の際の添付資料としてご使用ください。)

○ 株主様のご住所・お名前等に使用する文字に関してのご案内
株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前等の文字に、株式会社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定していない漢字等(いわゆる「外字」)が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿に記載しております。
このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置き換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前等として記録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。
なお、特別口座にて管理させていただいております株主様には、平成21年2月に「特別口座開設のご案内」をお送りしており、そのご案内の中のご注意事項で使用文字の制限についてご案内しております。



本冊子は環境に配慮し、再生紙と大豆油インクを使用しています。

■ ホームページのご紹介

投資家の皆様へ、充実したIR情報をいち早くお届けします。

投資家の皆様へ、より詳しい情報や新しい動きをお届けするホームページです。最新情報や財務データなど各種資料はもとより、月次の売上実績に加え、株式諸手続きのご案内など充実した内容しております。皆様のアクセスをお待ちしております。



<http://www.suzuden.co.jp/ir/index.html>

平成22年3月期の展示会のご案内

展示会名	開催日	開催場所
ESEC (組込みシステム開発技術展)	平成21年5月13日～ 15日(終了)	東京ビッグサイト
FOOMA JAPAN 2009 (国際食品工業展)	平成21年6月9日～ 12日(終了)	東京ビッグサイト
セミコン・ジャパン2009	平成21年12月2日～4日	幕張メッセ



〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目2番2号
TEL 03-5689-8001 FAX 03-5802-6764
ホームページアドレス <http://www.suzuden.co.jp/>
FA Ubonアドレス <http://fa-ubon.jp/>